

池上通信機

平成28年9月10日に創立70周年を迎えた同社では、「Broadcast Innovation—より豊かな映像表現をめざして—」をテーマに出展。今後ますます実運用化が広がる4K/HD番組制作ソリューションを中心に、4K時代のキーワードである「HDR」「12G」「IP」に対する取り組みを提案した。

また、国際会議場にて、創立70周年を記念したプライベートショーも行った。

展示された2/3型4KCMOS3板式カメラシステム「UHK-430」はオリジナルの次世代高速ビデオプロセッサ「AXII」を搭載、B4レンズマウントの採用により既存の標準的なHDレンズを使用することができる。

「CCU-430」はUHK-430のカメラコント

ロールユニットで40Gbpsの光トランシーバを搭載し、カメラ・CCU間の超広帯域を実現。非圧縮のRGB4:4:4信号伝送を可能にしている。

また、**新型ビューファインダ**は7.4型OLEDの「VFE741D」、7型フルHD LCDの「VFL701D」、2型LCDの「VFL201D」が展示。デジタルインターフェースを採用し、カメラとの間で双方向のメニューアクセスが可能。

システムエクスパンダ「SE-U430」はレンズロックを解除するだけで光軸を維持したままカメラを後方にスライドさせることが可能な機構を採用し、レンズ着脱の作業性を大幅に向上させている。

3G-SDI、HD-SDI、HDMIなど多様なインタ



2/3型4KCMOS3板式カメラシステム「UHK-430」



「UHK-430」に装着されたシステムエクスパンダ「SE-U430」

フェースを標準で装備した4K対応マルチフォーマット液晶モニタ「HQLM-3120W」はHDR対応タイプも参考出品された。そのほかにも4K対応コンパクトスイッチャ「CSS-400」や超小型FPU送信機「PP-90」など多数の製品が展示された。



国際会議場で行われたプライベートショーの様子



NKL

Backstage Equipment社とGrip Factory Munich社と共同出展。同社オリジナルアイソレーター「AJ DAMPER」が初展示された。アメリカのカメラマンやスペインの機材レンタル会社等に販売実績のあるアイソレーター150に改良が加えられたもの。横軸で復元力調節、縦軸でバネに掛かる荷重調節ができる。Backstage Equipment社からは日本の市場に合わせて開発した小型カート、Grip Factory Munich社からは「GF-Primo Dolly」「GF-Quad Dolly」「GF-Slider」「GF-Tele Jib」が展示された。



◇サイズ:直径260mm x 高さ300mm(突起部分を除く)◇本体重量:19kg◇総耐荷重:40kg(ヘッド・カメラ・レンズ・その他アクセサリ)◇取り付け口:(上)150φボールアダプター、100φボールアダプター、ミッチェルマウント(下)150φボールアダプター、ミッチェルマウント

共信コミュニケーションズ

「HD/4K/8K編集ワークフロー」「インジェスト&アーカイブ」「165インチ超狭ピッチ4KLEDディスプレイ」「4K撮影～高速転送」「オリジナルソリューション」の5分野を展示した。

オンライン編集、VFX、カラーグレーディング、S3D、VR、デリバリーをひとつのシステムにおさめたSGO社製トータルポストプロダクションシステム「Mistika」で「VRフィニッシング」「HDRグレーディング」を実演し「8Kモニターアウトでのポストプロダクション」を世界で初披露した。

他にも、豊富なフォーマットに対応し二次元光ディスクアーカイブへの直接制御が可能なDPSJ社のメディアアセットマネジメント「Metus MAM」、Avid社のアセットマネジメントシステム「Avid Interplay | Production」、共有ストレージシステム「Avid NEXIS | PRO」、ノンリニア編集システム「Avid Media Composer」、オーディオ編集システム「Avid Pro Tools」、シリコンコア社製の165インチ超狭ピッチ4KLEDディスプレイ「P0.95mmウルトラファインピッチLEDパネル」、汎用インターネット回



P0.95mmウルトラファインピッチLEDパネル

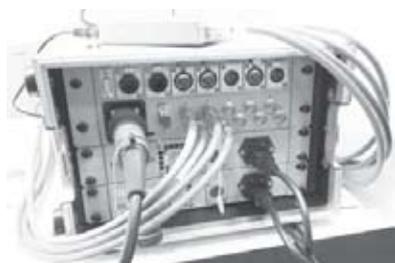
線(100Mbps～1Gbps)を利用したSkeed社の高速データ転送ソフトウェア「Silver Bullet」などが紹介された。

またオリジナルソリューションとしてマスク専用ターンキーシステム「- 嬬(Miyabi) -」のCS放送向けの実機、EDIUS Pro7、DaVinci Resolveを搭載した4K編集入門機「Revnes 4K」なども展示された。

三友

●8K コンテンツプレーヤー「Hyper CUBE」:
ブラックマジックデザイン社のHyper Deck Studio 12G を4 台組み合わせた安価な8K 再生システムで、NHK メディアテクノロジーが開発した同期コントローラにより4 台の再生機のフレーム同期制御を行い、8K 再生を実現する。

●4K 対応 ポン出し 装置「Hyper PON!」:
Windows タブレットのサムネイルをするだけの簡単操作でミスのない確実なポン出し制御を可能にする。送信中コンテンツの残時間表示やタリー表示機能の他、ログ機能、その他プレイリ



4K対応光多重伝送装置「THUNDERS 4K」
光波長多重技術により4K信号及び音声信号、TALLY(接点)をカメラケーブルで伝送可能。

スト再生機能やリピート再生機能も備えておりイベントや展示会でのループ再生用途にも使用できる。

●超高速ネットワークストレージ「Media Bucket」:
超高速I/Oにより複数のノンリニア編集機を接続しての同時利用が可能。MacOS 対応が可能なLinux モデルと、更に大容量対応の増設JBOD が用意されている。トランスコーダーや高速ファイル転送ツールなどを組み合わせたワークフローで展示された。

●カメラコーナー:「Leica Summilux-C」 「Leica Summicron-C」 「Leica Cine MacroLux +1 Diopter」の体験コーナーを設けた。

この他、高品質シネマ用ND フィルター「TRUE ND」、撮影用フィルター「FORMAT HITECH」、プロフェッショナル機材ケース「PortaBrace」 「ORCA Bags」、4K Optical Transmission Unit 「THUNDERS 4K」、オーディオ・ビデオモニタリングソリューション「Wohler」、グラスレス3D ディスプレイ「OAKTAIL」、可搬型バックアップ電源「ELIC WALKER」などが展示された。



Nokia 製リアルタイム 360度 VR カメラ「OZO」 「OZO Remote」で撮影したものをリアルタイムでモニタリングでき、VR 上で再現できる。

フォトロン

「4K HDR プロダクション」 「EVS スポーツ・スタジアム・ドラマ/バラエティ」 「Vizrt パーチャルグラフィックス・リアルタイムグラフィックス」の3つをキーワードに、最新の映像制作機器・ソリューションの展示、実演を行った。

●4K HDR プロダクション

4K リアルタイムストレージ「Avid NEXIS」を中心に4K ノンリニア編集システム「Media Composer」、カラーグレーディング/ノンリニア編集ソリューション「Davinci Resolve 12.5STUDIO」を使った4K HDR ワークフローデモが行われた。

●EVS スポーツ・スタジアム・ドラマ/バラエティ

4K ネイティブスローリプレイ他、HDR/12G-SDI など最新機能を持ったスポーツライブ中継をサポートする最新サーバ「XT4K」、マルチアングルのビデオ審判用プレビューシステム「Xeebra」などの EVS 各製品が出展、紹介され、フォトロンが開発した収録制御アプリ「STING」と EVS サーバを組み合わせたワークフローも行われた。

●Vizrt パーチャルグラフィックス・リアルタイムグラフィックス

世界で標準的に使用されている最新パーチャルシステムの他、2 系統の Fill/Key 出力に対応した新ハードウェア「Viz Engine DualChannel」が展示され、LaptopPC と AJA io4K で簡単に持ち運びの出来るポータブル RCG 機が紹介された。また、とった映像を簡単に編集し各 SNS にアップすることができる新製品「Viz Story」国内初展示され、インタラクティブなライブコンテンツを、それぞれの視聴者に合わせて作成、配信、公開するためのクラウドプラットフォーム「Singular」が参考出展された。

また他にも、同社開発のテロップシステム「TFX-Artist」導入企業によるスペシャルデモも実施された。



オーディオテクニカ



ブロードキャスト向け大口径ダイナミックマイクロホン「BP40」、インタビューやロケなどに最適なロングクリップ付きダイナミックマイクロホン「BP4002」、高耐入力設計の楽器収音用小型コンデンサーマイクロホン「ATM350U」とそのアタッチメント、ダブルドーム振動板を採用した楽器収音用ダイナミックマイクロホン「AE2300」、金属筐体を採用した高音圧接近収音用ダイナミックマイクロホン「ATM230」などが出展された。



計測技術研究所

同社は(株)OA研究所・(株)クレセント・(株)ニューテックとの8K/4Kをテーマにした合同企画展示を行い、8K/4K 超高精細映像を活かす各種機器、システムの InterBEE 特別コラボレーションを行った。

ProRes8Kレコーディング・システム「KRS-8K」: 世界初となる 8K (7680x 4320)@60Hz ProRes HQ 422 10bit で記録再生を行うレコーダ・システムであり、米AJA Video Systems 社の Ki Pro Ultra を 4 台同期運転させることで 1 台のVDRとして制御する。Ki Pro Ultra が持つ各種機能はそのままに、制御ユニットによるパネル操作により、基本的なオペレーション機能を提供する。1TB の SSD のメディア(PAK MEDIA:Ki Pro 専用)を Ki Pro Ultra 1 台あたり 2 つ搭載することができる。8K フォーマットで 2 時間以上の記録/再生が可能である。

また、収録においては、PAK MEDIA を 順次SSD メディアを入れ替えることで、連続記録が可能。KRS-8K は、8K(7680x 4320)@59.94Hz ProRes コーデックで記録再生を行うレコーディング・システム。米AJA Video Systems 社の Ki Pro Ultra 4 台を、1 台のビデオレコーダとして同期運転させることで、8K レコーダとして優れたコストパフォーマンスを実現している。

- ・再生専用レコーダーとしてだけでなく、コンテンツの収録やオンエア映像のバックアップ等が可能。
- ・収録映像は編集に最適なProRes形式でファイル化されるので、編集ソフトへのスムーズなデータ移行が行える。
- ・HD や4K マルチチャンネルにも対応で、HD や4K の既存の映像ソースにも活用可能である。
- ・制御ユニットの前面ボタンで、基本的な操



ProRes8Kレコーディング・システム
「KRS-8K」

作(PLAY, REC, STOP, FF/REW, スロー再生)が可能。

8K デュアルグリーン対応非圧縮ビデオサーバー「UDR-XL40」:「UDR-XL40」は、スタンドアロン型8K デュアルグリーン対応非圧縮レコーダである。同社が提供しているUDRシリーズは、高精細映像の研究開発分野では高い評価を得ており、現在研究開発のデファクトスタンダードとして使用されているが、映像制作分野における有益な機材としての実績は未だ多くないのが現状である。放送における映像クオリティが4K、8Kと年々高くなっている昨今、同社では、高精細映像向け非圧縮レコーダのシリーズとして16年にわたって蓄積した技術とノウハウを基に、既存の機器やコンテンツを生かしつつ、コンパクトな環境で最高のクオリティを体感頂けるUDRシリーズ初のスタンドアロン型8K デュアルグリーン (DG: Dual Green) 方式に対応するレコーダ「UDR-XL40」を開発した。「UDR-XL40」は、8K dual green 及び、4K 3D を一台で記録再生可能な次世代向けの非圧縮ビデオサーバーとなる。コンパクトながら一台でも高いスペックを誇り、更に2台同期運転する事でFULL8Kへの対応が可能。操作性も簡単で、直ぐにお手持ちの機材と合わせて使用可能である。

- ・小型ながらHD から8K まで対応。
- ・高速データ転送 (40Gb 転送可能、



8K デュアルグリーン対応非圧縮ビデオサーバー
「UDR-XL40」

USB3.0 標準搭載)。

- ・Ethernet 経由での専用GUIによる簡易操作、データ転送。
- ・データ保存時に、様々なファイル形式に対応可能。

そのほか技術展示としてメディアプロセッサの新機軸「CS」シリーズを紹介。映像や音声のみならず MIDI や DMX やシリアルポートなどを使った外部機器連携にも対応可能な画期的な映像制御システム。2K から 8K までの解像度に幅広く対応し、様々なメディアの取り扱いが可能。

本展では4Kまで対応可能なCSメディアプロセッサ400シリーズと、8Kまで対応可能なCSメディアプロセッサ800シリーズの2つのラインナップを展示した。

また、ブース内ではSONY社製データプロジェクター「VPL-GTZ280」を用いた4K/120P映像を147インチの大画面にて公開した。

DSP ジャパン

多様な入出力を装備したTrinnov プロフェッサー「MCシリーズ」、AVID S6 コンソールからのコントロールに対応したTrinnov プロフェッサー「D-MONシリーズ」、v10.1に進化したDSD256対応DAW「Pyramix」、v6.1に進化したポン出し機「Ovation」、BMDキャプチャーボードに対応したビデオモジュール「V Cube v6.1」、信号に忠実なアクティブ・モニター「PSIスピーカー」、新発想で定在波を吸うアクティブ・デフューザー「AVAA」などの新製品や100vAVを供給

可能な大容量バッテリー「Elly Power」が併せて展示された。

特に本展ではPSI Audio社のスタジオモニタースピーカーを幅広く紹介。PSI社のスピーカーは、スイスのユベルドンで設計・製作されているオールハンドメイドのアクティブ・スピーカーで、特徴として、どのサイズのものでも、音色がほぼ同等となっており、サラウンド環境にも容易に対応が可能である。

社名であるPSIはPrecision Sound Imageの頭文字から取られており、「電気信号を音響



信号に正確に速く変換する」という同社の指標が非常に良く表れている製品群で、特にツイーターは通常のスピーカーの倍のSPLを持っており、それにより通常より歪を低く抑えることに成功している。

パナソニック

「Broadcast Next Excitement with Panasonic ~ INNOVATION @ Business Front ~」をテーマに映像制作・放送関連機材部門とプロオーディオ部門の2部門にブース出展したほか、国際会議場にてパナソニックテクニカルスイートが催された。

■スタジオソリューション

●4K スタジオシステム「AV-HS7300」：豊富で機能的な入出力、多彩な演出をサポートする各種キーヤーやDVE、正確なスイッチングと直感的な操作に対応するコントロールパネルとメニューパネル。さらに、8ME 運用1、3G/4K フォーマットの対応による4Kの番組制作など将来的な拡張も見据えている。メインフレーム、コントロールパネルの電源の二重化に加え、ルーティングスイッチャーとのシステム構築による緊急時の運用にも対応している。放送局における豊富な経験と確かな実績を余すことなく取り入れて、その現場の生きた番組づくりのための4ME/3ME ライブスイッチャーがAV-HS7300 シリーズである。

●ニュース送出コンパクトパッケージ「AV-HS6000/OTC AV-SA3000」：優れたライブ操作性とスタイリッシュなデザインを追求したマルチフォーマットライブスイッチャー。システム性・機能性 SDI×32/DVI×2 入力、SDI×16 出力に、豊富なキーヤーやDVEを装備。多彩なトランジションと充実の映像演出を、高いコストパフォーマンスで実現。プラグインソフトウェアにより機能の拡張が可能。運用性・操作性 ワイプパターンやメモリーを呼び出すためのマルチセレクトパネル、カラーグルーピングできるクロスポイントボタン、見やすい素材名表示パネルなど直感的な操作が可能。迅速で正確なスイッチングをサポート。信頼性・安定性 万一の際に運用を維持するためメインフレームとコントロールパネルの電源二重化やIP 接続による最大3台のオペレーションパネルでの運用など、安全なシステムの構築に配慮している。

●4K スタジオカメラシステム「AK-UC3000」：特殊変換レンズ内蔵、既存の2/3型レンズをアダ

プターなしで使用可能 新世代4K 撮像方式 4K 大判センサーに外付けアダプターなしで2/3型レンズを使用できる。大判センサー専用設計した内蔵レンズで高画質を実現。新撮像方式により入射光を最大限に活用し、高いダイナミックレンジを確保している。

●HD スタジオカメラシステム「AK-HC5000」：進化を続けるENGカメラで定評のある3MOSセンサーをスタジオハンディカメラに展開 1080p 4 倍速撮影機能を標準搭載 AK-HC5000/HC5000S カメラシステムは、映像コンテンツ制作に豊かな表現力を与えるハイスピード撮影機能を搭載している。新開発2/3型MOSセンサーを搭載。新開発2/3型MOSセンサーにより、高画質な映像制作を実現している。

●4K マルチパーパスカメラシステム「AK-UB300」：多彩なシーンで活躍する2/3型レンズマウント搭載多目的4Kカメラ スポーツ中継などに求められる正確なカメラワークと高品質な4K画質を提供。様々な用途で4K画質を実現、小型でありながら4K空撮にも適している。撮影シーンに応じた2つの撮影モード(高感度モード/標準モード)の選択、新開発の霧除去機能の搭載、4K出力用ボード(3G×4)の入れ替えなど、使いやすさを追求し、多彩なニーズへ対応。4K出力にあわせて、4K用フォーカスアシスト機能、HD用切り出し機能も搭載。さらに、HD-IPストリーミング出力とIP制御もおこなえるため、当社製システムカメラAWシリーズとシステムを一元化することができ、柔軟性・拡張性のある運用を実現する。

●簡易スタジオカメラシステム「AJ-PX380G」：放送用の高画質、小型軽量の機動力、加えてさまざまな業務のシステムワークフローに対応する機能を備えながら、シンプルな操作と低コストで運用できる、1/3型ショルダータイプカメラレコーダー。高感度・高S/N・広ダイナミックレンジの1/3型220万画素3MOSセンサーと、1080/60p(50p)・10bit/4:2:2の高画質からストリーミング/FTP転送まで最適なビットレ

ートが選べるAVC-ULTRAコーデックにより、放送業務レベルの高画質収録が可能。有線LAN・無線LAN・4G/LTE回線に対応したネットワーク機能、SDI用BNCケーブル2本でシンプルにベースステーションに接続するカメラアダプター機能を搭載。ニュース取材から、中継、ライブストリーミング、そしてスタジオカメラ運用まで、幅広い用途にシンプル&ローコストで応える。

●送出&ファイルベースソリューション

・MAMファイルベースシステム
・P2クラウドワークフローシステム P2 Cast
P2ストリーミングサーバー
AJ-PX5000/PX270/PG50

●制作ソリューション

・VARICAMシリーズ
・4KカムコーダーUXシリーズ
AG-UX180/UX90
・4KカムコーダーAG-DVX200
・メモリーカードポータブルレコーダー
・コンパクトカメラヘッド
・360度カメラシステム
・デジタル入力レコーダー
DMR-T4000R/MC500

●放送用8Kレコーダ

・AVC-Intra圧縮8K P2レコーダー AJ-ZS0500

●リモートカメラソリューション

・リモートカメラシステム AW-UE70/HE130/HE70/HEA10
・自動追尾システム/ライブ配信ソリューション
・屋外対応HDインテグレートカメラ

●4K+超高解像度レーザープロジェクター

・3チップDLP方式 SOLID SHINE レーザープロジェクター PT-RQ32KJ

●スタジオライティング

・LEDスタジオ照明器具・調光操作卓

●サウンドソリューション

・RAMSA Auditorium Series
・1.2GHz/800MHz帯デジタルワイヤレスマイクシステム



「和」でトータルデザインされた映像制作・放送関連機材部門ブース



RAMSA Auditorium シリーズを主体としたプロオーディオ部門の出展ブース



国際会議場にて行われたプライベートショー「テクニカルスイート」

アストロデザイン

2016年8月1日から試験放送が開始され、2018年に本放送開始、さらに2020年の東京オリンピックに向けて進化を遂げる必要がある8Kに対応する超小型8Kカメラシステムをはじめ、新しい8K編集ワークフロー、さらにはフルスペック8K(120p)に対応した製品などが展示・紹介された。

出展製品は、8Kソリューションカメラヘッド「AH-4801-B」、8K55インチ液晶モニタ「DM-3815」、8KフルスペックSSDレコーダ「HR-7518/HR-7518-A」、8Kカメラ用CCU「AC-4802」、8Kインターフェースコンバータ「FC-8213」、フルスペック8Kのカラーグレーディングに対応する「VP-8427」、研究中のシート型ディスプレイなどの8Kソリューション。

その他、マルチメディアスキャンコンバータ「MC-2086」、4K-HD低遅延切り出し回転装置「GP-4020-A」、フルHD高解像度ビューファインダー「DF-3515」、「DF-3512」、4Kウェーブフォームモニタ「WM-3206B/WM-3206B-A」、遠隔操作のTS監視システム「MPEG-2」、HDMI2.0/HDCP2.2対応HDMIテスタ「VA-1844A」、デジタルビデオ信号発生器「VG-876」、4K/8K放送の送出設備・受信機開発ソリューションなどが展示された。

●フルスペック8K SSDレコーダ【HR-7518/HR-7518-A】:8K屋外収録・OBバンから局内・制作まで幅広い運用性を発揮する8K圧縮記録対応のSSDレコーダ。フル解像度、フルスペックの8K信号の記録再生をコンパクトな一台で実現する。中間コーデックとしてグラスバレー社のHQX技術を採用、8Kハードウェア化して組み込む。HQX技術はイントラフレームで信号処理を行っており、多様な編集システムへの対応が実現可能である。

●放送関連機器 字幕監視/ラウドネス/インサータ/切り出し装置

●HDR関連機器

■HDMI解析ソリューション

●4K・8K放送の送出設備・受信機開発ソリューション

●遠隔拠点の放送監視システム 注目の製品

●8K 55インチ液晶モニタ【DM-3815】

8K解像度7680×4320ピクセルのフルスペック8K(120p)表示可能な55インチ8K液晶モニタ。入力/FにU-SDI(ARIB STD-B58)と3G-SDI×16本を実装し、より便利に。フルスペック8K、フル解像度8Kと8K-DGに対応。現場への持ち出しだけでなく編集卓置き、8K映像制作、商品開発・医療・産業と幅広い用途で活躍可能。フルスペック8K SHV(120Hz)対応の液晶モニターです。U-SDI、SNAP12形式の信号、3G/HD-SDIを入力して8K映像を表示します。ガンマ、コントラスト、ブライトネスといった映像調整が可能である。

・55インチ液晶パネル採用

・モニター解像度:水平7,680ピクセル 垂直4,320ピクセル

・コントラスト比 1200:1以上・U-SDI、SNAP12、3G/HD-SDI入力対応

・専用リモートコントローラーによるユーザーからの映像調整が可能

・Grass Valley HQX Codec(以下HQX)による圧縮記録に対応

・8K-DGの圧縮記録・非圧縮記録が可能

・モジュール拡張により8K RGB4:4:4 120pの記録が可能

・12G-SDIをサポート(将来対応)

・10G光入出力端子(U-SDI)搭載・SSDデュアルスロットを搭載。収録中のメディア交換

(リレー録画)が可能(一部記録フォーマット除く)・最大32chオーディオ(非圧縮、24ビット)記録に対応

・2Uラックマウントサイズ

8Kカメラヘッド「AH-4801-B」【特長】



8Kを前面に謳ったブース入口右側にて、超薄型のシート型ディスプレイを紹介



今後1枚のシートで8K解像度を表示可能なシート型ディスプレイの開発を目指す

3300万画素のイメージセンサーをベースに開発した8Kカメラヘッド・駆動回路を約10cm角の筐体に内蔵することで、大幅な小型化を実現・中継映像。お天気カメラ。水中撮影などの可能性が広がります 2016年実用化試験放送に先駆けて、8Kスーパーハイビジョン(8K SHV)のカメラヘッドを紹介します。128.5mm(W)×125mm(H)×135mm(D)で重量2kgという超小型化を実現。手のひらで容易にグリップできるCube型の筐体に、未体験の映像美を駆使するための次世代技術が凝縮されています。3300万画素のイメージセンサーをベースに開発した8K SHVカメラヘッドです。駆動回路を約10cm角の筐体に内蔵することで、質量2kgという大幅な小型化を実現しました。デジタルシネマ撮影などで実績のあるレンズとの組み合わせで多彩な映像表現が可能です。さらなるリアリティが要求される各種中継映像、お天気カメラ、水中撮影など、超高精細映像の可能性が広がります



8K SSDレコーダ「HR-7518」(手前)と8Kインターフェースコンバータ「FC-8213」



8Kカメラシステム(光伝送システム)を紹介



4K切り出しを紹介

テクノハウス

映像／放送関連機器部門とプロオーディオ部門の2部門で、映像・放送関連機器、イベント関連機器、プロオーディオ製品など海外メーカー21社の製品を紹介。

特に今年は、3G/4G-LTE 対応ビデオを送信システム「DMNG PRO シリーズ」や、ライブ用 4K 切り出し用Odyssey オプション「Titan」などの新製品を発表した。

■映像／放送関連機器部門

●AVIWEST DMNG PRO180-RA :

AVIWEST のDMNG PRO シリーズは3G/4G-LTE のIP ネットワーク上でライブブロードキャスト品質のビデオを送信する。従来のUSB 端末を挿入するタイプの挿入口を改良し、USB 端末が外れる懸念を払拭した新製品。収録・転送に加え、ライブ中継と同時に高品質のビデオファイルをSD カードに収録することが可能でSIM カードを最大8 枚挿入して動作する。携帯電話周波数用広帯域アンテナ「QUAD」と組み合わせて使用することにより、厳しい状況下であってもより安定したライブ中継が可能となる。



evertz 光伝送関連機材のコーナー

●Odyssey7Q/7Q+,apollo 用ソフトウェアオプション「Titan」:4K/UHD 30p のHDMI/SDI 入力から任意の場所のHD 解像度の画面を2 系統切り出し、ライブスイッチングを可能にする。ライブスイッチングはHD-SDI で出力され、映像配信やプロジェクターでの投影など、様々な用途に適している。フルフレームと2 系統のHD、ライブスイッチングの合計4HD ストリームをProRes ファイルとしてSSD に収録できる。切り出し位置はタッチパネルか、後日発売予定のジョイスティックでリアルタイムに変更。スムーズなパンやチルトが可能で、入力信号にはSONY FS700/FS5/FS7 のRAW にも対応する。



Convergent Design「APOLLO」



プロオーディオ部門のブース

■プロオーディオ部門

WorldCast Horizon NextGen IP 専用音声コーデック「Horizon NextGen」は、音声断の無いIP 回線冗長化システムを構築する「SureStream」機能を搭載し、STL など重要な回線に使用できる回線冗長化システムが構築可能。

DHD 52 シリーズ 拡張性の高いXC Core (XD Core) を中心に、運用スタイルに合わせた操作面のコンソールを組み合わせるミキサーを構築する。編集室から生放送のメイン卓まで、どんなスタイルのミキサーでも作ることができる。DHD のミキサーはDSP ベースのシステムなので、とても安定している。

DEVA BroadCast New ワイドエフエムに対応したリファレンスモニターや、FM 測定器、オーディオプロセッサ、IP コーデックなど、放送音声に関わる様々な機材をラインナップしている。エフエムリファレンスモニターは本体のスピーカーからのモニターのほか、IP ストリーム機能を搭載しており、パソコンやスマホなどを使って、遠隔地から音声モニタリングが可能。

エス・シー・アライアンス

創立50周年となった同社では、デジタルインターカム/キュライトシステム「Green-GO」のワイヤレスモデル（写真下）と、Digigram社のIP コーデック「IQOYA LINK」の廉価版IP コーデック「IQOYA LINK/LE」（写真右）、Omnia社のFM 放送用ソフトウェアオーディオプロセッサ「OmniaSST」を国内初出展した。新しい「Green-GO」のワイヤレスベルトパックとPoE ワイヤレスアンテナを追加するだけで既存の有線「Green-GO」システムに組み込むことができ、特別なインターフェースは不要。

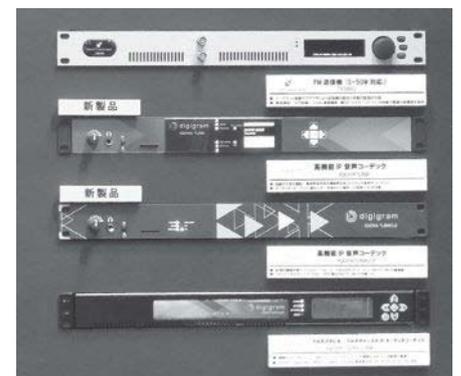
DECT 無線テクノロジーを採用し、1 台のPoE アンテナで最大4

台のワイヤレスベルトパックをサポート。1 つのシステム内に最大10 台のPoE アンテナを設置し、最大で40 台のワイヤレスベルトパックを利用できる。

その他、小型スペクトラムアナライザ「RF EXPLORER 3G/6G Combo」、米国AXIA社のLivewire+/AES67 準拠IP オーディオネットワークコンソール「FUSION」iQ」、米国ENCO社のラジオ及びテレビ向けの自動放送・制御システムであるデジタルオーディオデリバリーシステム、米国ESE社タイムコード・時計関連製品、米国Wheatstone社のIP ラジオコンソール「LX-24」、米国Inovonics社のFM 中継局のモニターに最適なFM サイトストリーマー「635」、FM/AM 放送監視チューナー、米国Meyer Sound社「D-Mitri



GGP-WBPX



デジタルオーディオプラットフォーム」、英国Out Board社のライブショーや劇場、テーマパーク等で使用できるデジタルマトリクスミキサー「TiMax SoundHub2」とUltra Wide Band 通信を使用したレーダー追尾システム「TiMaxTracker」による音像定位システムなどが展示、デモされた。